

本学卒業生の卒業後の状況に関するアンケート調査
(卒業生を対象とする調査)
第一三期生調査
ー2024 年度卒業生ー

2026 年 3 月 18 日
埼玉東萌短期大学
実習・キャリアセンター

I 調査の概要

1. 調査の趣旨

埼玉東萌短期大学の卒業生第一三期生を対象として、卒業後の就労状況、在学中の状況等に関する質問紙調査を実施し、本学の学修内容の検討及び卒業生のキャリア支援について検討する資料とする。

2. 調査の目的

本学を卒業し就職した者のその後の動向を把握し、在学中の本学の教育活動や学生支援活動が卒業後の職業生活を中心とする社会生活にどのように役立っているかを検討し、本学の教育活動や学生支援活動の一層の改善・充実を図るとともに、本学で学んだことが卒業後の生活において効果的に活かされるよう、本学卒業生への支援活動のあり方についても検討する。

3. 調査対象、調査方法、調査時期及び回収率

① 調査対象

本学の卒業生である第一三期生 61 名を対象とした。

② 調査方法

オンライン（Google Forms）によるアンケート調査を行った。

③ 調査時期

2025 年 12 月 2 日～12 月 21 日の期間に実施した。

④ 回収率

卒業生 61 名のうち、17 名から回答が得られた。回収率は 27.9%であった。

II 調査結果・考察

1. 卒業生自身の情報

卒業生の氏名、現住所、連絡先等の記入を求めた。
個人情報であるため、本報告においては省略する。

2. 現在の就職・進学先は卒業時と同様であるか

① はい 13 名

② いいえ 4 名

卒業後 1 年以内に、一定数の退職、転職が生じている。就職後の職場適応やキャリア形成は一様ではなく、本学においても卒業後のフォロー（相談窓口の周知、必要に応じた情報提供等）を継続する意義が示唆される。なお、この項目では現在の就職先名称についても尋ねたが、個人情報であるため、本報告においては省略する。

3. 学校生活全般について現在の状況（各設問で 1 つ選択）

① 本学を卒業したことに満足している

「そう思う」15 名、「ややそう思う」2 名、「あまりそう思わない」0 名、「そう思わない」0 名

② 本学で学んだことに意義があった

「そう思う」12 名、「ややそう思う」5 名、「あまりそう思わない」0 名、「そう思わない」0 名

③ 本学の建学の精神「以愛為人」を意識している

「そう思う」7 名、「ややそう思う」4 名、「あまりそう思わない」1 名、「そう思わない」0 名

④ 本学の学校訓の一つである「自尊」の力をもっている

「そう思う」6 名、「ややそう思う」5 名、「あまりそう思わない」2 名、「そう思わない」0 名

- ⑤ 本学の学校訓の一つである「創造」の力をもっている
「そう思う」5名、「ややそう思う」11名、「あまりそう思わない」1名、「そう思わない」0名
- ⑥ 本学の学校訓の一つである「共生」の力をもっている
「そう思う」5名、「ややそう思う」12名、「あまりそう思わない」0名、「そう思わない」0名
- ⑦ 実践力のある保育者としての力をもっている
「そう思う」2名、「ややそう思う」13名、「あまりそう思わない」1名、「そう思わない」1名

本学を卒業したことへの満足や、本学で学んだことの意義については、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると全回答者が肯定的に回答しており、本学での学びが卒業後も概ね肯定的に評価されていることが伺える。一方で、本学の建学の精神「以愛為人」を意識しているかについては、「あまりそう思わない」との回答が1名見られた。また、「実践力のある保育者としての力をもっている」についても、「あまりそう思わない」「そう思わない」との回答がそれぞれ1名ずつ見られた。これらの結果から、多くの卒業生は自身の力を肯定的に捉えているものの、一部には自己評価が十分でない回答も見られることが分かる。

4. 在学中の本学での状況（各設問で1つ選択）

- ① 専門的な知識や技術が身についた
「そう思う」8名、「ややそう思う」9名、「あまりそう思わない」0名、「そう思わない」0名
- ② 本学は就職実績が高い
「そう思う」12名、「ややそう思う」5名、「あまりそう思わない」0名、「そう思わない」0名
- ③ 教育環境が充実している
「そう思う」9名、「ややそう思う」6名、「あまりそう思わない」2名、「そう思わない」0名
- ④ 教職員との距離が近い
「そう思う」15名、「ややそう思う」2名、「あまりそう思わない」0名、「そう思わない」0名
- ⑤ 授業についていくことができた
「そう思う」13名、「ややそう思う」4名、「あまりそう思わない」0名、「そう思わない」0名
- ⑥ 仲の良い友達ができただ
「そう思う」13名、「ややそう思う」4名、「あまりそう思わない」0名、「そう思わない」0名
- ⑦ 学生生活を楽しんだ
「そう思う」11名、「ややそう思う」4名、「あまりそう思わない」2名、「そう思わない」0名

在学中の状況については、「教職員との距離が近い」と回答した卒業生が最も多く、本学の特徴である教職員と学生の関係性の近さが卒業生にも強く認識されていることがうかがえた。また、「本学は就職実績が高い」「仲の良い友達ができただ」「学生生活を楽しんだ」といった項目についても多くの肯定的回答が見られ、学生生活全体として良好な経験として受け止められていたことが伺える。一方で、「教育環境が充実している」「学生生活を楽しんだ」については「あまりそう思わない」との回答がそれぞれ2名見られた。また、「専門的な知識や技術が身についた」「授業についていくことができた」については全体として肯定的回答が多いものの、ほかの項目と比べると相対的に低めであった。これらの結果から、概ね肯定的評価が得られている一方で、教育環境や学修内容、学生生活の充実感については一定の改善の余地がある可能性も示唆された。

5. 卒業時、希望した進路（就職先・業種、進学先等）に進めたか（1つ選択）

- ① 最も希望する進路だった 5名
- ② それなりに希望する進路だった 12名
- ③ あまり希望しない進路だった 0名
- ④ 全く希望していない進路だった 0名

卒業時の進路については、「最も希望する進路だった」が5名、「それなりに希望する進路だった」が12名であり、回答者全員が一定程度、希望する進路に進んでいる結果となった。

このことから、本学の進路支援や就職指導が一定の成果を上げていることが伺える。
今後も学生一人ひとりの希望や適性を踏まえた進路支援を継続していくことが重要である。

6. 現在の就職先を選ぶ際、何を重視したか。もしくは、今後、選ぶか（各設問で1つ選択）

① 経営規模

「とても重視する」4名、「どちらかといえば重視する」9名、「どちらかといえば重視しない」2名、「全く重視しない」2名

② 理念・目標

「とても重視する」5名、「どちらかといえば重視する」10名、「どちらかといえば重視しない」0名、「全く重視しない」2名

③ 雰囲気・人間関係

「とても重視する」11名、「どちらかといえば重視する」5名、「どちらかといえば重視しない」1名、「全く重視しない」0名

④ 雇用形態

「とても重視する」12名、「どちらかといえば重視する」4名、「どちらかといえば重視しない」0名、「全く重視しない」1名

⑤ 処遇（給料・手当等）

「とても重視する」9名、「どちらかといえば重視する」5名、「どちらかといえば重視しない」3名、「全く重視しない」0名

⑥ 労働時間・休暇日数

「とても重視する」11名、「どちらかといえば重視する」6名、「どちらかといえば重視しない」0名、「全く重視しない」0名

⑦ 通いやすさ・地理的条件

「とても重視する」12名、「どちらかといえば重視する」2名、「どちらかといえば重視しない」3名、「全く重視しない」0名

⑧ 専門知識や特技が活かせる

「とても重視する」8名、「どちらかといえば重視する」6名、「どちらかといえば重視しない」2名、「全く重視しない」0名

⑨ 人や社会に役立つ

「とても重視する」7名、「どちらかといえば重視する」8名、「どちらかといえば重視しない」1名、「全く重視しない」1名

⑩ 自分のやりたい仕事ができる

「とても重視する」11名、「どちらかといえば重視する」5名、「どちらかといえば重視しない」1名、「全く重視しない」0名

⑪ 自分のキャリア形成に役立つ

「とても重視する」7名、「どちらかといえば重視する」7名、「どちらかといえば重視しない」2名、「全く重視しない」1名

就職先を選ぶ際に重視する点については、「雰囲気・人間関係」を「とても重視する」と回答した者が11名、「どちらかといえば重視する」が5名であり、多くの卒業生が職場の人間関係や雰囲気を重視していることが示された。また、「労働時間・休暇日数」「通いやすさ・地理的条件」「雇用形態」「自分のやりたい仕事ができる」といった項目についても肯定的回答が多く、働きやすさや生活との両立に関わる要素が重視されていることがうかがえる。さらに、「人や社会に役立つ」「専門知識や特技が活かせる」「自分のキャリア形成に役立つ」といった項目についても一定数の回答が見られ、仕事のやりがいや社会的意義も意識されていることが示された。

これらの結果から、職場環境や労働条件とともに、仕事の内容や社会的意義など複数の観点から就職先を選択している様子がうかがえた。

7. 卒業後に参加した・見ているものについて（各設問で1つ選択）

- ① 同窓会誌（東萌だより）
「見ている」2名、「知ってはいたが見ていない」3名、「存在を知らなかった」12名
- ② 本学のホームページ
「見ている」6名、「知ってはいたが見ていない」10名、「存在を知らなかった」1名
- ③ 本学のInstagram
「見ている」15名、「知ってはいたが見ていない」2名、「存在を知らなかった」0名
- ④ 本学のX
「見ている」0名、「知ってはいたが見ていない」6名、「存在を知らなかった」11名
- ⑤ 本学のYouTube（萌短チャンネル）
「見ている」1名、「知ってはいたが見ていない」12名、「存在を知らなかった」4名

卒業後に本学に関する情報として見ている媒体については、「Instagram」を見ているとの回答が15名と最も多く、卒業生にとってSNSが主要な情報源となっていることが示された。一方で、「同窓会誌（東萌だより）」については「見ている」と回答した者が2名にとどまり、「存在を知らなかった」との回答も12名見られた。また、「X」や「YouTube」についても「存在を知らなかった」との回答が一定数見られた。これらの結果から、媒体によって認知度や利用状況に差があることがうかがえる。今後の卒業生への情報発信においては、利用状況を踏まえた媒体の選択や周知方法の検討が必要であると考えられる。

8. 後輩学生に対するメッセージや本学へのご要望などがあれば記入（自由記述）

- ・（施設名）は職員同士ほんとに支え合っています。私は支えられてばかりです。子どももサバイバルな子もいますし、泊まりもあって重労働に思えるお仕事ですが、私にとっては一番行いたい仕事であり、美化しているような聞こえますが心から楽しいと思える大好きな仕事です。
- ・①実際の現場で保育に迷いが出た時、尊敬した実習先の先生を思い出して「あの園だったらどう対応するかな？」と原点にかえることがよくあります。実習での経験は思っていた以上に役に立っているの、先生方から様々なことを吸収するつもりで頑張ってみてください。
- ・②保育士志望のママさんがいまして、来年度そちらに入学するかも知れません。明るく、私よりずっと保育者向きな方です♪よろしくお願いします。
- ・自分のペースでいいから一つひとつの学びをしっかりと自分のものにしてください。絶対に役に立ちます！
- ・学生だからこそ今しか学べないことが沢山あります。社会に出ると勉強の機会というのはかなり減ってくると思います。今を大切にできる方に運も味方するので、今を全力で楽しんで学んで下さい。応援してます。
- ・卒業してからも、たくさん相談に乗ってくださいいつも本当にありがとうございます。この1年ほんといろいろなことがあり、学長先生からいろいろな先生にご相談させて頂きました。本当に助けていただきました。ありがとうございます。今後も私にできることがあればいつでも力になりますので、今後ともよろしくお願いします。また、異文化交流についても今後連絡させていただきます。よろしくお願いします。
- ・保育士の夢が叶った時は凄く嬉しいくて頑張ろう！って初めは思ってましたが、現実にはそんなに甘くないです。人間関係も難しいし、保育の現場にいざ自分が経つと、現実はこちらなんだって実感します。今の自分がそうです。辞めたいって何度も思う事は何度もあるけれど、保育士をして後悔をした事は1度もありません！胸を張って言えることは！人と比べない！これ一択です。初めは出来ないのが当たり前だしあの人できてるって思ったらほんとにメンタルやられるので自分は偉いって沢山自分を愛するのが大切♡いつか選ばれる時が来ると信じて私は、毎日頑張ってます！それでも下を向くことはこれから沢山あるかもしれないそれでもいいです！下向くのは朝起きたらおしまい！また前を向いて頑張れば貴方はすごく偉いです！頑張ってください。
- ・児童養護施設に少しでも興味のある方、まずは実習に行ってみたらどの道へ進むにしてもかけがえのない経験、思い出になると私は思います。
- ・がんばれっ！
- ・就職してみて、給料と仕事量は比例すると感じました。

今の職場は、前職の保育園よりは給料が低いですが、気持ちがとても楽で、書類に追われることもなく、干支が2回
りも上の人ばかりなので人間関係で困ることもなく、初めから学童にすればよかったと思いました。
学童は基本昼前出勤なので拘束時間が短く、長く寝られるし、資格の勉強をすることもできます。私は子供たち
や学童のためになにかしたいと思い、カウンセラーの資格、行動心理士の資格を勉強しています。
学童の仕事は大変ですが、とても楽しいです
あまり学童を希望する人がいなく、私も20歳って言った時びっくりされましたが、視野に入れるのもいいので
はないかなって思います。

後輩学生へのメッセージや本学への意見として、8名から回答が寄せられた。内容としては、保育の仕事のや
りがいや難しさ、実習経験の重要性、学生時代の学びを大切にしたいという助言など、後輩学生への励ま
しや助言が多く見られた。また、卒業後の職場経験を踏まえ、保育の現場の実際や働き方について触れている
記述も見られた。

さらに、卒業後も教員に相談を行っていることへの言及や、本学とのつながりに対する感謝の言葉も見られ、
卒業後も教職員との関係が継続している様子がうかがえた。これらの記述から、在学中の実習経験や教職員と
の関係が、卒業後の実践やキャリア形成の中で一定の意味を持っている可能性が示唆される。

また、進路に関する記述の中には、保育所以外の職場（学童など）に関する経験や、働き方に関する気づきに
ついて触れたものも見られた。これらの内容から、保育分野における多様な働き方や進路について学生が理解
を深める機会をどのように提供していくかについても、今後検討していくことが示唆される。

なお、文章は回答者の原文のままで引用しているが、絵文字等の表現があった部分は句読点に置き換えた。具
体的な施設名の記述については、個人や施設が特定されないよう配慮し、名称を伏せる加工を行った。

Ⅲ まとめ

実習・キャリアセンターでは、卒業後の状況把握や、在学中の学修や学生支援が卒業後の職業生活にどのよう
に活かされているかを検討することを目的として、2024年度に卒業した第十三期生を対象に「卒業後の状況に関
するアンケート調査（卒業生調査）」を実施した。回答数は17名であり、対象者61名に対する回収率は27.9%
であった。昨年度は卒業生79名のうち6名の回答（回収率7.6%）であったことと比較すると、回収率は増加し
ているものの、卒業生全体の状況を把握するには依然として十分とは言えない。今後は、卒業生への連絡方法や
調査依頼の機会について検討し、継続的に卒業生の状況を把握していくことが課題である。

調査結果から、本学を卒業したことへの満足や、本学で学んだことの意義については、いずれの項目でも肯定
的回答（「そう思う」「ややそう思う」）がすべてを占めており、本学での学びが卒業後も概ね肯定的に受け止めら
れていることがうかがえた。また、在学中の状況については「教職員との距離が近い」と回答した卒業生が多
く、本学の教育環境の特徴の一つである教職員と学生との関係性の近さが、卒業後も印象に残っていることが示
唆された。

一方で、建学の精神や学校訓に関する項目、また「実践力のある保育者としての力」については、全体として
肯定的回答が多いものの、一部には十分に実感できていないとする回答も見られた。これらの結果から、本学の
理念や学びの内容が、卒業後の実践とどのように結びついているのかを学生自身が振り返る機会について、教育
の中でどのように位置づけていくかを検討していく必要があると考えられる。

進路に関しては、回答者全員が一定程度希望する進路に進んでいると回答しており、本学の進路支援が一定の
成果を上げていることが示唆された。一方で、卒業後1年以内に転職等を経験している者も見られることから、
就職後の職場適応やキャリア形成が必ずしも一様ではないことも確認された。こうした点を踏まえると、卒業後
も相談や情報提供などの形で卒業生を支える仕組みについて、引き続き検討していくことが重要である。

就職先を選ぶ際に重視する点としては、「雰囲気・人間関係」「労働時間・休曜日数」「雇用形態」「通いやす
さ」など、働く環境に関わる要素を重視する傾向が見られた。保育職を志す学生にとっては仕事内容だけでなく、
職場環境や働きやすさも重要な判断材料となっていることが示唆される。今後の進路指導においても、職場
環境や働き方に関する情報提供の在り方について検討していくことが求められる。

さらに、自由記述では、実習経験が実際の保育実践において役立っているという意見や、現場での経験を通して保育の仕事のやりがいや難しさを実感しているという声が見られた。また、卒業後も教員への相談を行っていることへの言及や、本学とのつながりを継続している様子もうかがえた。これらの記述から、在学中の実習経験や教職員との関係が卒業後の実践やキャリア形成の支えとなっている可能性が示唆される。

また、卒業後に本学の情報を得る媒体としては、Instagram の利用が多い一方で、同窓会誌や YouTube 等については認知度や閲覧状況に差が見られた。こうした結果から、卒業生との関係を継続していくための情報発信の方法については、利用されている媒体の状況を踏まえながら検討していく必要があると考えられる。

本調査は回答数が 17 名と限られているため、結果の解釈には一定の留意が必要であるが、卒業生の状況や意識の一端を把握する資料として、本学の教育活動や学生支援の在り方を検討する上での参考になるものと考えられる。今後も卒業生の状況把握を継続しながら、本学の教育や学生支援、進路支援の改善・充実に向けた検討につなげていくことが期待される。

埼玉東萌短期大学
卒業生の現状調査(就職先調査)
(第十三期生調査) ー2024 年度卒業生調査ー

発行者 埼玉東萌短期大学
〒343-0857 埼玉県越谷市2丁目21番地1
Tel. 048-987-2345
Fax. 048-989-4550
URL. <https://www.saitamatoho.ac.jp>
発行年月日 2026 年 3 月 18 日

この調査報告書は、本学に無断で転載することを禁じます。